

『弟子となった学者』（マタイの福音書 13 章 47-52 節） 2022.9.11.

<はじめに> 13 章には 8 つのたとえがあります。1)種蒔く人(3-9・説明 18-23)、2)麦と毒麦(24-30・説明 36-43)、3)からし種(31-32)、4)パン種(33)、5)畑に隠された宝(44)、6)真珠を探す商人(45-46)、7)魚網(47-50)、8)一家の主人(51-52)です。今日はその最後の二つを取り上げます。

I 魚網のたとえ(47-50)

①漁の姿(48)

網を海に投げ入れて、頃合いを見計らって網を引き上げる漁は、当時よく見られたものです(マタイ 4:18、ルカ 5:4、ヨハネ 21:6)。岸に網を引き上げると、獲物とそうでないものにより分けます。網を打って集める場面と、網を引き上げてより分ける場面があります。

②今は恵みの時、救いの日(Ⅱコリント 6:2-3)

天の御国にも二局面があります。今は天の御国は広く開かれています。神は、すべての人が救われて、真理を知るようになることを望んでおられます(Ⅰテモテ 2:4、ヨハネ 3:16)。しかし、いつまでも開かれてはいません。終わりの時が近づいています。

③この世の終わりに(49-50)

この世の終わりは誰もまだ見ぬ局面ですから、イエスは解説も添えられます(40-43)。その時、神の御前にすべての者が引き出されて、御使いたちが来て正しい者たちの中から悪い者がより分けられます。私たちはどのようにして「その時」に備えればよいのでしょうか。

II 一家の主人のたとえ(51-52)

①みなわかりましたか(51)

イエスのこの問い掛けに彼らは「はい」と答えています。「彼ら」とは誰でしょうか。」”は 51 節にあります。その始まり””はどこでしょうか。「これらのこと」とは具体的に何ですか。あなたも彼らと同じように答えられますか。何がわかりましたか。

②一家の主人(52)

倉には古い物から新しい物まで収められています。主人ならば、そこにあるものすべてを掌握して、自在に取り出すことができます。天の御国の弟子となった学者もそれと似ているとイエスは言われます。何がどう似ていると思いませんか。

③弟子となった学者(マタイ 16:17)

「弟子」とは教えられた者で、その結果知識と理解を持つ「学者」となります。天の御国の奥義(11)、隠されていること(35)をイエスから教わりました。イエスの教えは「新しい教え」と人々に映りました(マルコ 1:27)が、古から神が語られていた真意の開示でもあります。

III 天の御国の理解

①現在進行形

イエスが語られる天の御国は死後の世界、来世でも、限定的な神の支配領域でもありません。私たちが生活する現実世界はすべて天の御国、神の支配と権威が及ぶところです。この事実私たちが目が開かれているのでしょうか。その御国は完成へと進んで行きます。

②成長が期待されている

天の御国はダイナミックに今の時代と私たちに働き掛けています。それにどう応答するか強い関心を抱いておられます。また、それを妨げようとする者も働いています。しかし、天の御国を慕い求める者を神は助けて、それらの中でも着実に成長して行きます。

③やがて完成される

天の御国は現在の状況がずっと続くものではありません。たとえにはたびたび収穫が描かれ、終わりの時を示唆します。その厳粛な時が刻一刻と近づいています。それに向けて、私たちは整えられ、備えるようにと語られます。

<おわりに> 「聞く耳のある者は聞きなさい」と語られます。天の御国のペールは取り除けられています。私たちが天の御国のことを教わるのが許され、その知識を持つ学者となれる機会と可能性を与えられています。天の御国を身近に感じて生きる者となれますように。(H.M.)